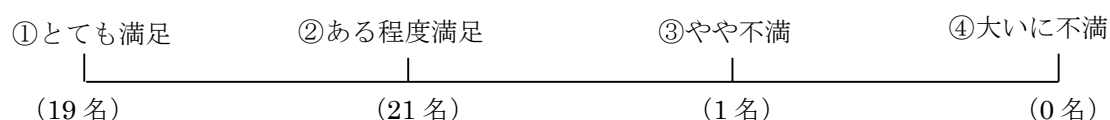


対話イン福井 2014 事後アンケートの集計

アンケート回答者：合計 41 名

| 学年 | 学部／修士 | 学部 | | | 修士 | |
|------|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 学年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 1 年 | 2 年 |
| 専攻 | 工学（原子力系） | 10 | 3 | 11 | 7 | 6 |
| | 工学（非原子力系） | | | 3 | | |
| | その他、不明 | | | | 1 | |
| 希望進路 | 就職 | 8 | 3 | 7 | 6 | 4 |
| | 進学 | 2 | | 7 | 1 | |
| | 未定、不明 | | | | 1 | 2 |

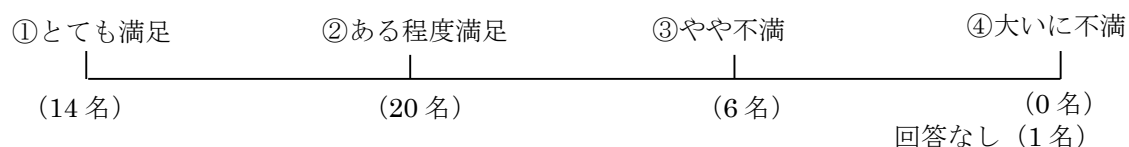
(1) 講演の内容は満足のいくものでしたか？ その理由は？



理由

- ・シニアや他大学学生と議論する機会が希少でいろいろな意見を聞くことができた。日頃なかなか聞けない話が聞けた。とても分かり易い説明だった。現在のエネルギー問題がよく分かった。疑問が解消した。いろいろな角度から考えることができた (①の理由)。
- ・実務に携わってきたシニアの話が聞けた。原発の諸問題を認識できた。あまり知識がないためほとんど新しい知見だった。原子力の知識の無さを痛感できた。普段とは異なる立場からの講義だった。フランスの話が新鮮だった。資料が見やすかった。要点が整理されていた。放射性物質の処理方法がよく分かった。エネルギー全般や今後の原子力の理解を深めることができた。時間が短かった (②の理由)。
- ・テーマを絞った講演が聞きたかった (③の理由)。

(2) 対話の内容は満足のいくものでしたか？ その理由は？



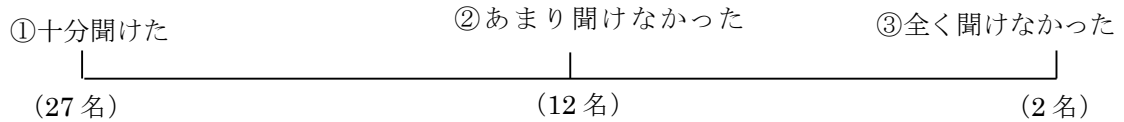
理由

- ・コストについて実際の関係者から聞けた。最前線で頑張ってきたシニアの意見が聞けた。シニア個々の違う意見が聞けた。シニアの知識の広さ。疑問が解決できた。自分では思いつかない意見が聞けた。他の人の意見を聞くことができた。福島の実状を知ることができた。大切な経験となった。(①の理由)。
- ・少し対話時間が少なかった。ややテーマと逸れていた。テーマが広過ぎて深い話があまりできなかった。シニアが話し過ぎた。自分の原子力知識の無さを痛感できた。シニアの経験を沢山聞けた。理解できなかったことの答えが得られた。質問はできなかったが、話を聞いて納得した。質問を投げかけられたので話がし易かった。エネルギー事情の知識が増えた。国や電力会社の政策を学

び、自分の意見がより具体的になった。(②の理由)

- ・自分の準備不足。1対1の話となり全体の対話にならなかった。対話時間が足りなかった。反対意見がないので対話が盛り上がらなかった。(③の理由)

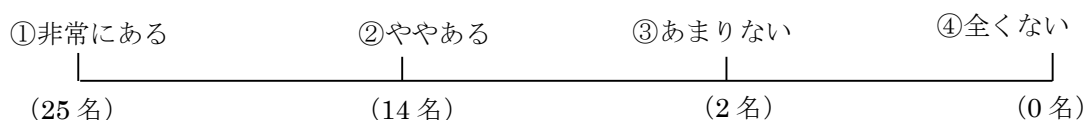
(3) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？



(4) 今回の対話で得られたことは何ですか？

- ・新たな知識。他人の考え。いろいろな考えや知識。基礎的な知識の補てん。知識を更に深めることができた。他大学の学生の意識。他の学生の意見が聞けて刺激を受けた。
- ・シニアの貴重な意見。実際に原子力関係企業・機関に勤務した方々の再稼働等に関する考え方。
- ・日本だけでなく海外の情報。海外では原子力に対して楽観的だということ。日本と海外における原発に対して国民に理解を得る方法の違い。
- ・原発が必要かどうか。自然エネルギーや原発のコスト。メリット、デメリットと現状。再生エネルギーには発電効率以外にも問題があること。実用性の大切さ。
- ・防災の知識。防災対策
- ・報道内容と事実のギャップ
- ・今後の原子力。福島の実状と今後の課題。これからの原子力の課題。廃棄物問題。今一番やるべきことは原発や処分地の地域住民とのコミュニケーション。自分達の世代で取り組むべきものの一つが見えた。
- ・将来は自分達がやるんだということ。

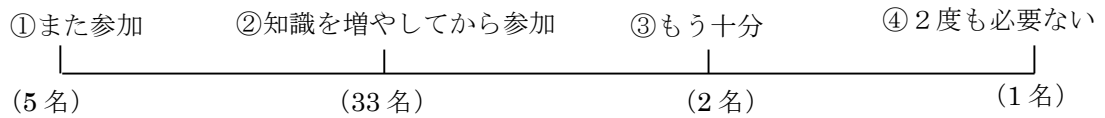
(5) 「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？ その理由は？



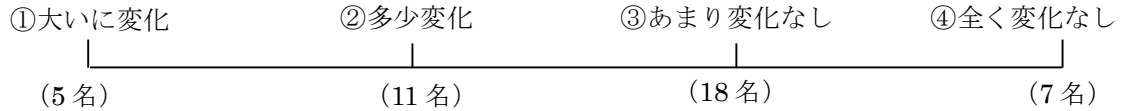
理由

- ・学生の知らない現場を教えてもらえる。学生だけでは気づかない、知らない点に気づくことができる。これからの課題が分かる。疑問が解決できる。理解がより深まる。シニアの実体験が有意義。違う観点から捉えることができる。世代の離れた対話は大切。経済と関連づけて考えることができる。あまり機会がない、経験できない。経験者の生の体験や意見は貴重。原子力初期の苦労話などが聞ける。良い経験になる。(①の理由)。
- ・素人(学生)の参加で専門家同士の対話では生まれないアイデアが生まれる可能性がある。学生の知識不足を補うことができる。現場の人と教育者では観点が違うので、多角的に考えることができる。いろいろな意見や考えを聞くことは勉強になる。考え方の違いが学べる。知識が深まる。(②の理由)。
- ・理由の記載なし(③の理由)。

(6) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？



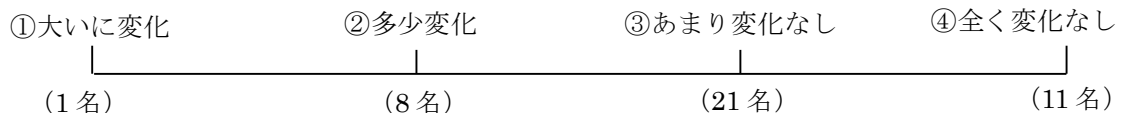
(7) エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？ その理由は？



理由

- ・原子力発電の必要性。エネルギーの一つ（原子力）が無くなるだけで日本は大きく変わると認識した（①の理由）。
- ・身近な電気はあって当たり前という認識が変わった。日本がこの先どうなるか不安になった。再生エネルギーでも、使えば間接的にCO2を排出することを知った。自然エネルギーは送電には不向きだが、発電場所で使うには向いていることを知った。日本は莫大なエネルギーを使用していることを知った。火力依存のリスクをより定量的に知った。（②の理由）。
- ・元々エネルギーへの危機の認識があった。元々知っていた。概ね同意見が多かった。変化はなかったが、認識が深まった。学んだ内容だった。報道をよく耳にしていた（③の理由）。
- ・元々エネルギーへの危機感を持っていた（④の理由）。

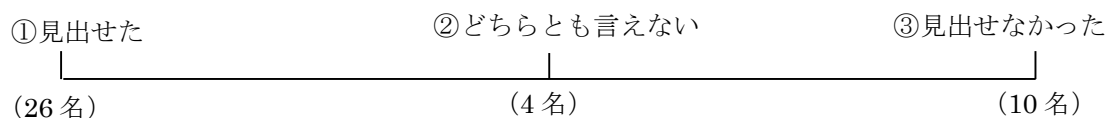
(8) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？ その理由は？



理由

- ・理由の記載なし（①の理由）。
- ・原子力は安全で大きな利益を生むものだと分かった。電力会社がいろいろな安全対策をしていることを知った（②の理由）。
- ・原発再稼働はやはり必要だと分かった。元々推進派だった。元々良いイメージを持っていた。原子力と火力のコストが7倍違うことに驚いた。原子力は大事だと改めて思った。元々再稼働に賛成だった。学んだ内容だった。元々知っていた。予想外の講演ではなかった（③の理由）。
- ・元々エネルギーへの危機感を持っていた。元々賛成派だった。対策や市民への説明方法に差がなかった（④の理由）。

(9) 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？ その理由は？



回答なし（1名）

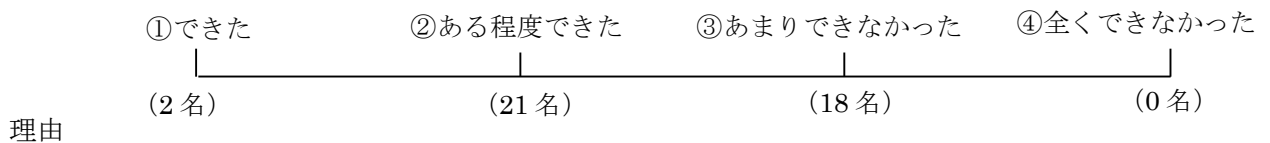
理由

- ・今後の研究の必要性。自分の学科で今回学んだことを必ず活かしたい。原子力技術応用工学科との関連があった。防災対策の知識が増えた。安全性を求めていくことも必要だと思った。今後原子

力をどのように進めていくかを考えるから。放射線を学んでいるため。原子力を学んでいるので。原子力をより良い方向にしていきたい。原子力をどう他の人に薦めるか。廃炉に使用される材料の研究をしているので。リスクコミュニケーションの重要性と必要性。元々原子力関連の学科だから。研究に関連する話題だった (①の理由)。

- ・関連性はあるが、見出すところまでには至らなかった。授業に関連する内容もあったが、研究分野が異なる (②の理由)。
- ・関連性を考えていなかった。住民との対話の観点の話が多かった。対話内容と自分の研究の方向性が違う (③の理由)。

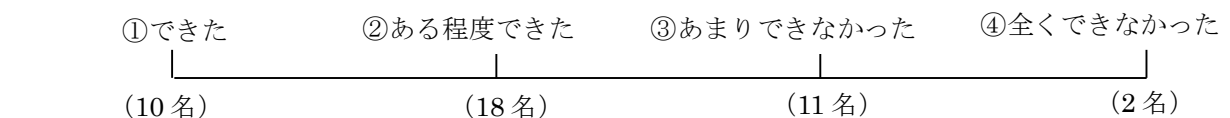
(10) 対話の内容から将来のイメージができましたか？ その理由は？



理由

- ・原子力をより良い方向にしていきたい。(①の理由)。
- ・具体的に話し合えた。将来のエネルギー問題の解決策の一部が分かった。将来、自分が就きたい職業を考えた。再稼働の有用性を学んだ。原子力を深く考えることができた。廃棄物処理問題は、ある程度強引にでも進めていく必要がある。原子力に足りないものが見出せた。現状の対策ではやはり危険であると再認識した (②の理由)。
- ・政府、企業、市民間のコミュニケーションから着手する必要がある、まだスタートラインにも立っていないように思えた。将来、原子力に関わるかどうか分からない。原発反対派の実数が分からなかった。対話テーマが決まっているため、将来の話題までにならなかった。学部 2 年生なので、遠い将来のように考えている。技術面の話が多く、自分の将来に結びつけられなかった。まだ手探りで遊んでいる状態だから。案は出たが、意見が収束しなかった。福島現状から将来は見えなかったが、自分達で作っていきたい (③の理由)。

(11) 対話の中でシニアが思う若手の役割を理解できましたか？ その理由は？



理由

- ・今後の技術開発など、若手の役割について具体的な意見がシニアからあった。若手が、今ある科学への疑問を払拭できる技術開発や説得ができたらと思った。新しい広報の仕方が重要。技術を進歩させること。福島を復興する (①の理由)
- ・今後の原子力を担う者への期待が込められていた。シニアの時代には考えられなかった、より詳しい問題を解決していく必要がある。現場を経験したシニアの知識が得られた。若者が今後やるべきことを、シニアが具体的に話してくれた。結果だけでなく、その過程も大事。意見を持つだけでなく、自分で何ができるかを考えることが重要であると学んだ。原子力の知識・技術を次世代に伝えていく必要がある。市民への原子力防災教育は難しく、今後若手が行っていく重要性を知った (②の理由)。
- ・現在の延長線上をそのまま若手が受け継ぐだけとしか思えなかった。時間がなく、その話題がなか

った。積極的に参加できなかった。漠然としていた (③の理由)。

- ・どの質問も全て説明されていた (④の理由)。

(12) 自分が思っていた若手の役割とシニアの考えは違いましたか？ どのような違いがありましたか？ また、シニアの考えを聞くことで、自分の考えに変化はありましたか？ できるだけ詳しくお答えください。

- ・若手は補助くらいのものだと自分は考えていたが、シニアは全体の中での若手という捉え方で、若手を主役にしていた。
- ・シニアより若手の方が物事を浅く見ているような気がした。
- ・自分にはいかに知識がないかが分かった。
- ・違いはあまりなかった。必要だから造るしかないと思ったので自分の考えに変化はない。
- ・違いはなかった。
- ・安定したベースロード電源とするにはリスクを低減して国民の理解を得られるようにしなければならぬという考えが強くなった。
- ・シニアは技術的な期待より広報的な役割を若手に求めていると思った。
- ・危機管理は国がすれば良いと思い、調べたり考えたりしなかったが、シニアの考えを聞いて、自らも行動を起こさないといけないと思った。
- ・本気になれば、まだまだ技術開発ができる、今後安全性を強化するためには技術開発が必要だと思った。
- ・今ある技術を引き継いで若手は更に進歩させるべきだと思った。
- ・シニアは学んだことを若手に教え、若手はシニアがもし間違っていたら、また次の世代に正しく教えていく。
- ・原子力推進に尽力したいという考えになった。

(13) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ・全体的に疑問が解消しただけでなく、福島の実状を知ることで、今後の方針、安全性の強化点などを考えることができた。
- ・報道内容とシニアの意見がまったく違っていた。
- ・対話の時間をもっと欲しかった。シニアと離れ過ぎで、もっと少人数にグループを分けて欲しい。
- ・対話時間をもっと長くして欲しい。
- ・シニアと学生が1対1で対話し、他の学生は黙るという状況であった。学生間（福井大学生と福井工大学生）で対話して、分からないことや違いをシニアが指摘するというやり方が良い。
- ・有意義な時間を過ごせた。
- ・また参加したい。